

## 【八溝多賀森林計画等の樹立・策定に伴う意見交換会】

平成30年1月16日（火）常陸太田市民交流センターにおいて、「八溝多賀森林計画等の樹立・策定に伴う意見交換会」を開催しました。

意見交換会には、茨城県、関係市町村、関係業界等から25名、局署関係者22名が出席しました。

冒頭に主催者を代表して下平署長から、次期計画の策定に当たり、管内の関係者等から幅広くご意見をお聞きする場として開催した。当計画区は茨城県の北部に位置する5市1町に所在し、国有林3万5千Haを対象としている。これは当署国有林面積の8割を占め、生育良好な人工林の割合が高く、全国有数の林業生産活動の拠点である。



また、袋田の滝や男体山、花貫溪谷など自然とふれ合う場を提供するなど、森林の多面的機能を発揮させる必要のある地域である。森林資源も利用期を迎えた森林が大きな割合を占めている。

今後、資源の循環利用を進め、伐採造林一貫施業など新たな手法を積極的に取り入れ、林業成長産業化を牽引し、民国連携して取り組んでいきたい。

関係者からのご意見・ご要望をお聞きし、次期計画へ反映させたい、との挨拶がありました。

続いて、「森林・林業・木材産業の現状と課題」、「茨城の国有林」、「八溝多賀森林計画等の樹立・策定」について茨城森林管理署から説明し、意見交換を行いました。

主な意見・要望は以下のとおりです。

・ 現行計画の人工造林の更新量は計画よりも少なく、立木販売による伐採が進まなければ更新が進まないとの説明があったが、次期計画ではどうなるのか。

・ 林道の整備状況は立木販売の生産性や採算性に大きく影響する。林道がないために立木販売の買受けができないところもある。立木販売予定箇所の林道新設をもっと進めてもらいたい。



・ 伐採・造林の一貫施業は大々的に行った方が良いのではないかと。そのことによってコンテナ苗等のコスト削減など、相乗効果が出るのではないかと。

・ 収穫量が全国 No1 であるとのことであるが、事業者の実行能力が高いということも言える。高性能林業機械が若い職員で使われている。より高い目標を立てて取り組みたい。そのためにも、森林整備の事業量をこれからも変わらず確保してほしい。

・治山事業に関連して、全国の災害危険箇所18万箇所の内、1,200箇所をピックアップしている。茨城県は民有林、国有林併せて11箇所と聞いているが、具体的なところはどうなっているのか。

・茨城署は木材生産能力が高い。木材の需給が大きく変化している中で茨城県が木材の面で混乱しないのは、国有林の生産量が大きいためである。要望であるが、毎年度の茨城署の事業実行計画について、我々業界に対し説明会を開いてほしい。



・針広混交林の広葉樹のイメージと複層林の考え方を聞きたい。

・森林共同施業団地を設定していただき、今まで手の出せなかった地区も手入れが可能となった。林道整備も引き続きよろしくお願ひしたい。



・県としても国有林と連携しながら取り組んでいきたいので、よろしくお願ひしたい。

最後に下平署長から、「本日は活発なご意見を頂いた。趣旨は森林計画であるが、茨城署の事業運営全般の話もあり、これらの意見が今後の森林計画や業務に役立つよう取り組んでいくのでよろしくお願ひしたい」との話があり、意見交換会を終了しました。